第 010 号　2020 年 7 月 13 日　平井東幸

コロナはいずれ克服できると信じて

首都圏だけでなく都市部では全国的に感染者が再び増加し、第2波の到来かとの専門家の声も聞かれる昨今ですが、100 年に一度の災害といった声を耳にすると、第 2 次世界大戦の戦中戦後を経験しているへそ曲りとしては、どうも納得がいきません。

新型の肺炎ではないか。コロナの死者はこれまで 1000 人弱、一方、肺炎で亡くなる人は万単位です。東アジアは人口当りで感染者数も死者数も欧米等に比べると大幅に低いです。治療薬とワクチンが出来るまでの一時的な現象で過剰反応は禁物と心得ています。

それにしてもグローバル化が裏目に出て、この感染症は瞬く間に世界を覆い尽くしました。経済が世界的に失速する中で、コロナ退治と経済活動復活とを如何に両立させてゆくのが大きな課題であることは、多言を要しませんが、それにしてもコロナ対策で国も地方もさらに借金を重ねてこの調子だとGDPの 2.5 倍もの負債を抱える借金超大国の道をまっしぐらであり、これが大いなる心配です。

また、ポストコロナに関連してリモートワークなどが大きく普及するとの意見がありますが、人間社会は急に大きくは変わらないのではないしょうか！それとコロナを機会に海外の特定国に過度に依存する経済は危ないことが認識されたのはプラスと思います。

コロナは長丁場です。コロナを「正しく」恐れて、新平常の生活を「正しく」行って、治療薬とワクチンの開発を待ちたいです。

平井東幸　（元団体職員・元大学教授）　　2020 年 7 月 13 日